

学校点描^{プラス}

クロカン表彰式のセレモニーに優勝監督
胴上げがありました。ただの名前だけの素
人監督だったのに胴上げをしてもらいま
した。選手・コーチ・保護者に感謝です。

《K中学校》

NO.16

R5. 1. 31

担当：校長

1月25日（水）から、大寒波が襲う福島県内にてアルペンとクロカンの東北大会が開催されました。初日の女子3kmフリー競技では、T・Aさんが8位に入賞しました。男子5kmフリー競技では、Y・Kさんが第3位、K・Jさんが5位に入賞しました。2日目の女子3kmクラシカル競技ではT・Aさんの13位が最高でした。男子5kmクラシカル競技ではY・Kさんが第2位、K・Jさんが第5位に入賞しました。最終日のリレー競技では、女子リレーで第3位（K・Kさん－T・Aさん－C・Mさん）、男子リレーでは、見事優勝を果たしました。（K・Tさん－K・Jさん－Y・Kさん－H・Kさん）

S・Kさんが出場したアルペン競技では、大回転、回転ともに残念ながら入賞には至りませんでした。それでも大回転では、1本目は県トップの12位につけています。まだまだのびしろに期待できます。

町民の方々がリレー競技の3日目に大型バス等を使って、5時間近くかけて大会開催地に来て応援してくださいました。たくさんの声援に、選手たちも勇気づけられていました。ありがとうございました。

“たかが”の話

今週は、一週間ぶりに学校に通勤です。県中体連スキー大会クロスカントリー競技に続いて、東北大会の監督として選手引率をしていたからです。生徒玄関前には、除雪車が掻いたあとの雪の山が残っています。朝早くからH・MさんとS・Kさんが、二人だけでスノーダンプを使いながら除雪作業を行っています。JRC委員で曜日ごとに当番を決めて行うことになったようですが、当番であつても来ない生徒もいるようです。そして、この二人は、他の当番の生徒よりも除雪作業を行う曜日が多いと聞きます。二人の除雪している脇を、他の生徒たちは、歩きやすくなった階段を踏んで玄関に入っていきます。



福島県南会津郡南会津町古町の伊南クロスカントリーコースで東北大会は開催されまし

た。南会津町からさらに30分以上山の中に入る場所にあります。

町のバスで到着したときは、快晴でしたが、1月25日（水）の日本全国を襲った大寒波のときは、－10℃の中の競技となりました。

監督と言っても、わたしは素人です。昔顧問を1年間したことはありますが、いまだにフリー競技とクラシカル競技のスキーの板の

違いがわかりません。だれがK中選手かは、青いユニフォームの色で見極めることしかできません。その度に、コーチ達に聞きながら、試合を観戦します。だから、きっと人とはまったく試合の見方が違うのだと思います。競技開始の前に、ゼッケンがアルファベットの前走者がコースを滑ります。たぶん、数字の番号をつけた選手たちに危険がないか、コース状態を確認する意味があるのだろーと思って見ていました。



K中のチームにも、Y形県大会の結果で、東北大会の個人競技にはエントリーできなかった二人の選手がいます。その選手たちは、大会事務局に希望を出して、前走者のアルファベットゼッケンをつけて滑ります。他の学校にも同様の理由で前走を滑る選手たちがいます。10数名の前走者たち。大会として記録は残らないけれど、コースを滑る選手たち。クロカンの世界では当たり前なのかもしれないけれど、素人のわたしは、そういう生徒に注目するのです。どんな気持ちで走るのか、力を抜いて走ることだってできる、指導者から言われて仕方なく走る人だっているだろう。「ただいまより、前走の選手たちがスタートします！」会場のアナウンスがされて、10数名が一斉スタートしていきまし



た。ゴール付近から見える小高い山の頂上に、真っ先に青いユニフォームが見えます。猛吹雪の中、全然力を抜かず、必死に走っている前走のK中選手を見て、なんだか胸が熱くなるのです。

大会最終日の前日夜、K中チームのミーティングで、Oコーチから、「校長先生から一言お願いします。」と言われて、この感動したことを話しました。こんな部員がいるチームだからこそ、明日はきっといい成績が残せると。

1998年の長野オリンピックでも同じようなことがありました。日本チームは金メダル候補と言われながら、1回目のジャンプが終わり4位と厳しい状況に追い込まれていました。2回目のジャンプで逆転するしかありません。しかし徐々に天候は悪化していく。前が見えないほどの吹雪。そしてついに競技が中断。このまま中止になれば1回目の結果で順位が決まってしまう。4カ国の代表からなる競技委員は続行か、中止かを話し合っていました。皮肉にも競技委員の4名は、上位4カ国と同じでした。つまり、今中止となれば日本だけがメダルを取れないのです。日本はなんとか試合続行を申し出ます。すると他の国の競技委員は「25人のテストジャンパー全員が転倒せずに飛べたら続行でよい」と、通常ではありえない条件を出したのです。テストジャンパー達は、「日本がメダルをとるため」に一丸となって皆、大飛行を決めました。そして競技の継続が決定し、日本は金メダルを獲得しました。

与えられた場所で精一杯咲く。

たかがボランティアでの除雪の話。たかが試合前の前走の話。と、言う人はいるのかもしれませんが。

でも、人を育てる上では、この“たかが”を、わたしは一番大切にしたいのです。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。